

早期胃癌研究会 2020 年・2021 年最優秀症例賞は 松山赤十字病院胃腸センターが受賞

早期胃癌研究会では、毎月原則として4例の症例が提示され、臨床所見、病理所見ともに毎回詳細な症例検討が行われている。2003年より、年間に提示された症例の中から最も優れた症例に最優秀症例賞が贈られることになった。

18回目の表彰となる早期胃癌研究会年最優秀症例賞は、松山赤十字病院胃腸センター 清森亮祐氏の発表した「IIa+IIc様の形態を呈した十二指腸神経内分泌細胞癌(NEC)の1例」に贈られた。2022年3月16日(水)にウェビナー形式で開催された早期胃癌研究会の席上で、その表彰式が行われた。

賞状の贈呈に先立ち、早期胃癌研究会運営幹事の小澤俊文氏(総合犬山中央病院消化器内科)が“この研究会で提示された症例は、その後の運営委員会で検討され、毎月の優秀症例が選ばれる。年間の優秀症例を集めた中から最優秀症例を決めるという過程をとっている。今回は(コロナ禍の2020年11月度も含めて)8例の中から運営幹事会にて検討、3例に絞り最終投票を行った結果、本症例が最優秀症例賞に選ばれた”と選考過程を述べた。

続いて、早期胃癌研究会運営委員長の江崎幹宏氏(佐賀大学医学部消化器内科)から、賞状と副賞が贈呈された。江崎氏は“誠におめでとうございます。早期胃癌研究会が重視している、画像の提示、病理学的な検討、その後の考察とも、非常に優れた症例でした”と評価した。

清森氏は“歴史と伝統ある早期胃癌研究会で、大変名誉ある最優秀症例賞をいただき、ご選考に携わった運営委員をはじめ、関係各位の皆さまに厚く御礼申し上げます。また受賞



▲ 最優秀症例賞を受賞した清森亮祐氏。

症例の診療や症例提示において、直接ご指導をいただいた当院胃腸センター所長・蔵原晃一先生と病理診断科部長・大城由美先生には深く感謝いたします。今回の受賞は「もっと頑張れ」という叱咤激励を受けたものと考えており、賞の名に恥じぬよう、今後も一例一例を大切に、研鑽を積んでまいりたいと思います”と受賞の挨拶を述べた。

引き続き清森氏より、受賞症例の解説が行われ、この貴重な症例の発表が終わると、Web上で視聴していた参加者から盛大な拍手が贈られた。